2024年9月9日

「神宮外苑地区のまちづくりにおける樹木保全について（要請）」に係る見直し案について

別添資料

1. 再開発後の樹木本数の増加

施設計画の工夫等による伐採本数の削減や、新植本数の増加に伴い、本計画における樹木の本数は再開発前との比較において1,904本から2,304本へ400本増加いたします。増加する400本は、伐採本数減少124本、今回の新植本数増加261本、当初計画での樹木増加94本の合計から、枯損等79本を差し引いた本数となります。

	再開発前	再開発後
当初計画	1,904本	1,998本
見直し後	**1,904本**	**2,304本**

+400本

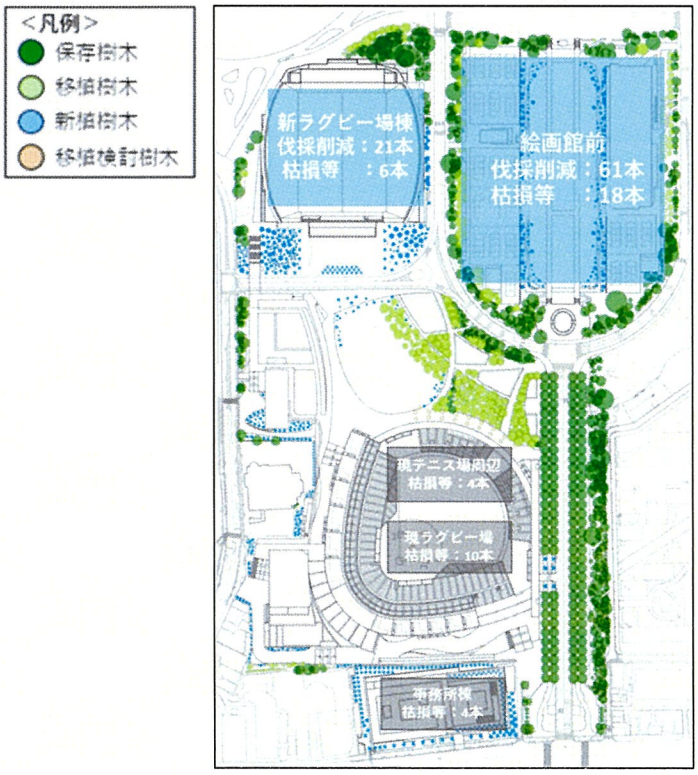
(1)施設計画の工夫等による伐採本数の削減等

新ラグビー場敷地及び聖徳記念絵画館前の既存樹木について、施設計画の工夫により伐採本数を66本削減いたしました。また、2023年に実施した毎木調査（以下「2023年毎木調査」という。）の結果、樹木の樹勢回復等を踏まえ、16本を伐採から移植へ見直しました。このほか、枯損等による伐採予定樹木42本の減少を反映した結果、伐採本数は当初計画の743本から619本へ124本減少となります。

表1. 見直し後の伐採本数124本減少の内訳

	全体	内訳		
		新ラグビー場	絵画館前事業	その他
伐採から保存に変更（施設計画の工夫による変更）	66	9	57	0
伐採から移植に変更（樹勢回復等に伴う変更）	16	12	4	0
見直しによる伐採削減本数（①）	**82**	**21**	**61**	**0**
枯損等による伐採予定樹木の減少本数（②）	42	6	18	18
本計画における伐採削減・減少本数の合計（①+②）	**124**	**27**	**79**	**18**

図1. 見直し後の伐採本数124本減少のエリア分布



※2 移植樹木や新植樹木の位置については詳細検討中であり、今後変更の可能性がございます。

(2)新植本数の増加

施設計画の工夫や移植樹木の移植先の見直しにより、新植本数は当初計画の 837 本から 1,098 本へ 261 本増加となります。

表 2. 新植本数の見直し

	全体	内訳		
		新ラグビー場	絵画館前事業	その他
当初計画	837	81	398	358
見直し後	1,098	212	528	358
増加本数	**+261**	**+131**	**+130**	**0**

■枯損等が生じた樹木の取扱い

「枯損等」とは、立ち枯れや腐朽等により、安全管理上撤去する必要がある樹木を指します。神宮外苑の樹木については、樹齢の経過とともに樹勢が弱まっている樹木も少なくなく、来訪者の安全確保のために、日常的に倒木や枝折れの対策を実施し、過去 15 年間で約 300 本の枯損等が生じた樹木を撤去し、補植による樹木の更新を行っております。

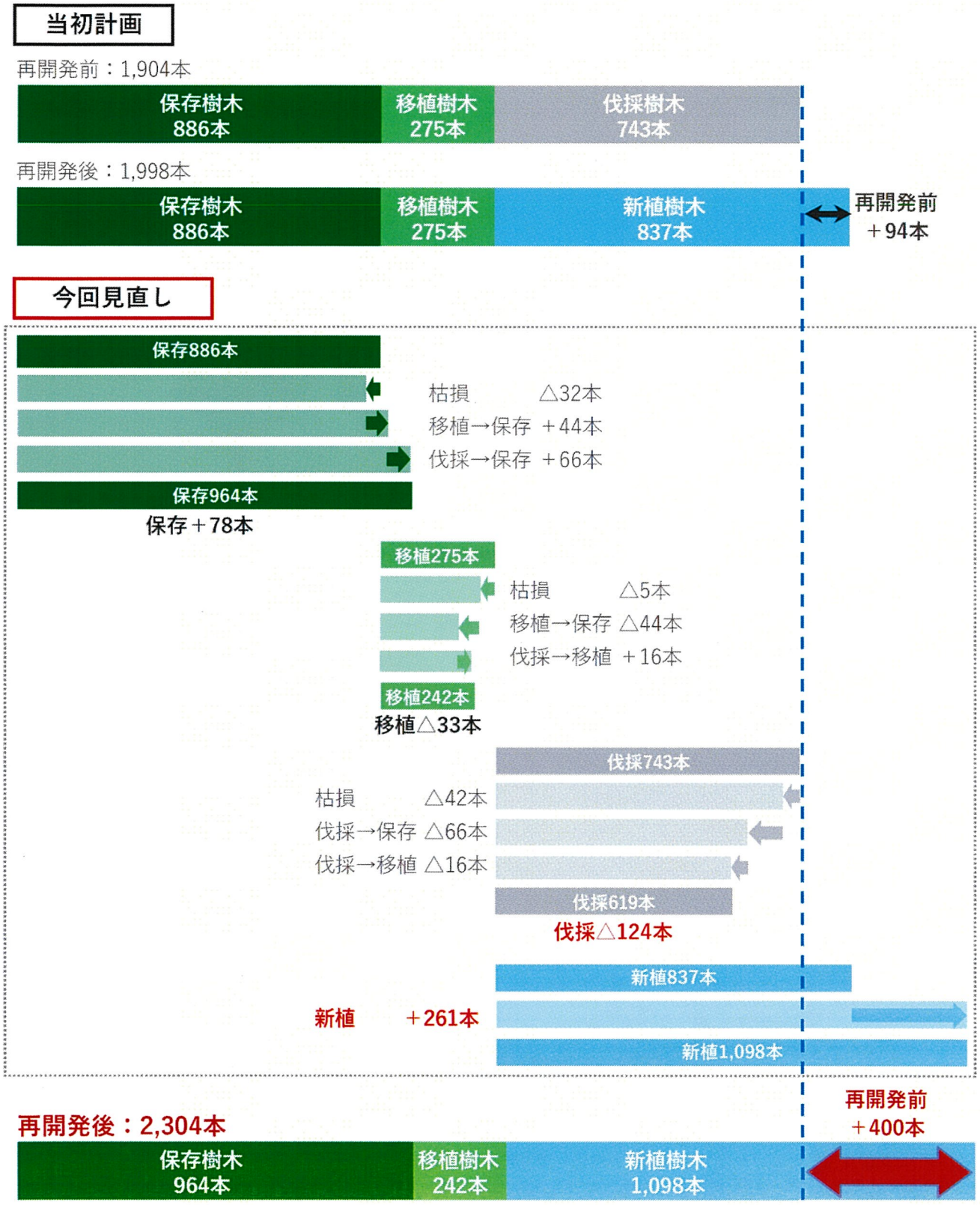
本計画における再開発前の樹木本数は、2018 年から 2019 年にかけて実施した毎木調査（以下「2019 年毎木調査」という。）を基にしていますが、2019 年毎木調査以降の約 4 年間で枯損等が 79 本（当初計画においては伐採 42 本、保存 32 本、移植 5 本としていた樹木）生じています。

今後も樹勢の弱い樹木を中心に、枯損等が一定量生じることが予想されますが、本計画で保存もしくは移植予定であった樹木が枯損等により失われた場合は、同数の補植を実施する計画としており、将来豊かな緑の環境を創造してまいります。

以上の見直し等の結果、本計画における樹木本数は、当初計画から以下の通り変更となります。

（増加する 400 本は、伐採本数減少 124 本、今回の新植本数増加 261 本、当初計画での樹木増加 94 本の合計から、枯損等 79 本を差し引いた本数となります。）

図 2. 当初計画と見直し後の樹木本数比較



※3 本資料における樹木本数は、樹高 3m 以上の樹木を対象としております。

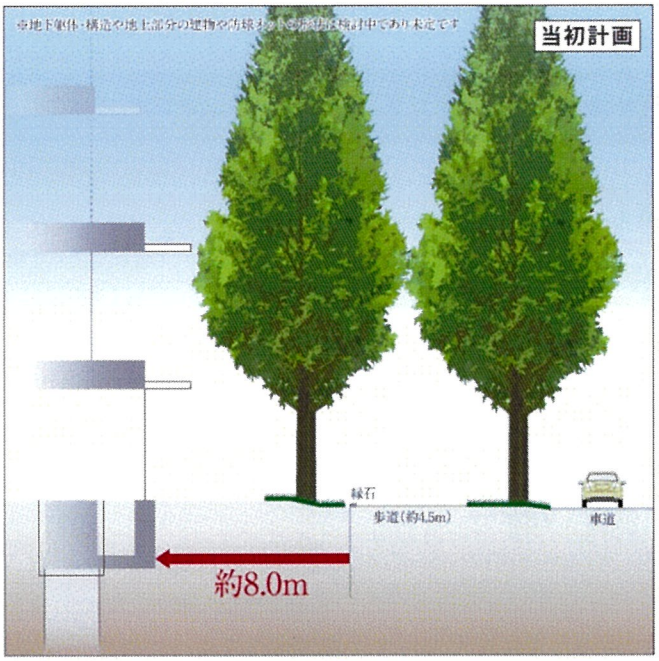
※4 移植樹木には、移植検討樹木 19 本を含みます。

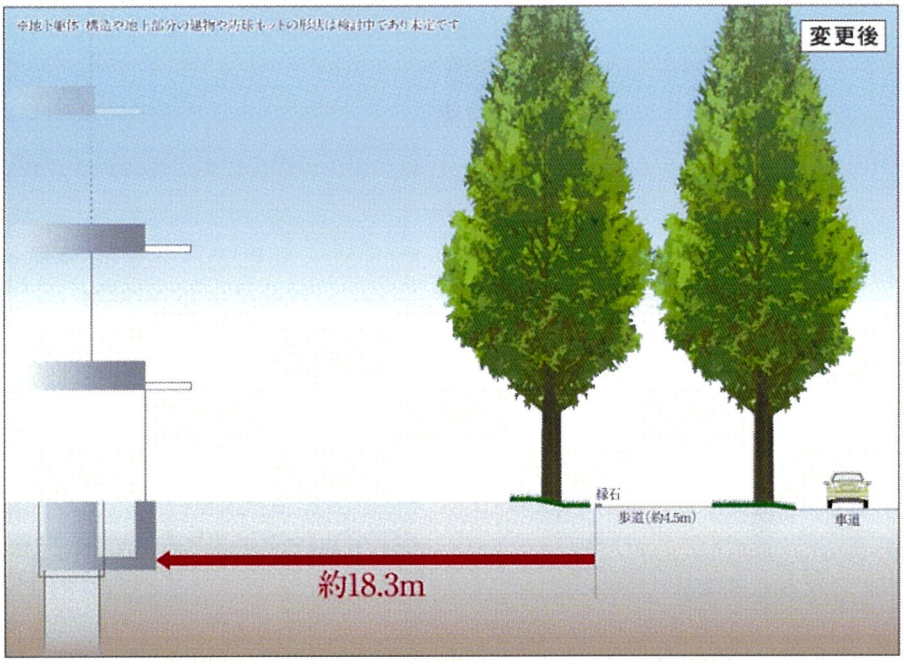
2. 新野球場棟のセットバック幅の拡大

(1)根系調査の結果と新野球場棟のセットバック幅拡大について

2023 年 1 月と 2024 年 1 月の 2 回にわたり実施した 4 列のいちょう並木の西側一列の根系調査により、根の太さ・本数・長さ等を調査した結果、いちょう並木の歩道縁石から西側へ約 17m を超えた位置では直径 30 ㎜以上の根（※5）は確認されなかったことから、約 17m までを根系保護範囲とします。さらに約 1.3m を工事中の施工スペースや更なる根系伸長域として確保し、新野球場棟のセットバック幅を、当初計画の約 8m から約 18.3m に拡大する方針といたしました（図 3.参照）。

図 3. 根系保護範囲と新野球場棟地下躯体セットバック簡易模式図





※5 環境影響評価書においては「根系調査の結果、調査断面（1m×1m）において、直径 30 ㎜以上の根が 4 本未満の場合には根を切断し、4 本以上の場合には根に対して環状剥皮を行う。いちょうの健全な生育に影響を与えるような根が複数確認されたと樹木医が判断する場合には、樹木医の見解を踏まえ、施設計画の工夫等を行い、いちょうを保全する。」とする判断基準を設けています。

上記の通り、セットバック幅を約 18.3m に設定することにより、いちょうの根系保護範囲は当初計画の 2 倍以上に拡大されます。また、いちょう並木沿いの歩行者空間やオープンスペースが増大します。4 列のいちょう並木を保全し、聖徳記念絵画館を臨む見通しの良い美しい景色を後世に継承しながら、より多くの方々にいちょう並木に親しんでいただける空間を創出します。

なお、根系調査はイビデングリーンテック株式会社が実施しており、複数の樹木医等からの意見を基に調査方法の検討や結果の分析を行い、さらに第三者のセカンドオピニオンを得た上で、本方針の決定に至っております。

(2)いちょうの樹勢回復措置について

いちょうの生育環境をより良くするため、2024 年 4 月より様々な樹勢回復措置を実施しております。樹勢回復措置の具体的な内容については、2024 年 7 月 26 日付の以下リリースをご参照ください。

URL：https://www.jingugaienmachidukuri.jp/pdf/jingugaienmachidukuri_news_2024072601.pdf

3. その他

港区などからの要請を踏まえ、住民説明会の開催及び実施に向けた検討を進めております。詳細については、決まり次第、改めてお知らせいたします。

また、引き続きプロジェクトサイトにてご質問受付・回答を行ってまいります。

以　上